

私を育ててくれた繋がり

ブヤンジラガル エンフゲレル

小さいころから私にとって女の子の友達とはとても大切な存在でした。学校の休み時間に遊んだり、家でおしゃべりしたり、何でも話せる友達がいつもそばにいてくれました。女同士で笑い合い、助け合いことはとてもあったかくて、私に安心感と元気をくれます。

日本に来ることが決まった時、私が一番不安だったのは家族や友達とはなれることでした。でも、親友のエグシさんが一緒だったのでさびしさを感じたことは一度もありません。友達がいるだけでどんな場所でも安心できるような気がします。

私は女性を女性を守る存在だと信じています。その思いは、母の人生から学びました。私が8歳の時、父ががんで亡くなりました。その後、母は仕事や家事、子育てのすべてを一人でやるようになってきましたが、そんななかでい時支えたり、助けてくれたのは、家族だけ

でなく、母の女友達でした。引っ越しの日に荷物を運んでくれたり、夜遅くまで電話で話を聞いてくれたり、「あなたならきっと大丈夫」などあたたかい言葉をかけてくれたりしました。そして、私はその姿を見て気がついたのは女性の友情は人生を支える根っこのようなものだということです。

私にとって一番大切な友達の一人はサンサです。今、彼女はアメリカに留学していて、遠くはなれていますが、私たちの絆は変わりません。放課後にサンサの家でお菓子を焼いたり、音楽をかけて踊ったり、将来の夢や恋の話語り合ったり…。うれしい時も、落ち込んだ時も、そばにはいつでも彼女がいました。サンサと過ごした「普通の日々」が私の宝物といっても過言ではありません。

サンサは私に自分を大切にすることの本当の意味を教えてくれた人です。彼女は絵を描いたり、本を読んだり、おいしいものを作ったり、運動をしたりして自分の心も体も愛し

ていました。やりたいことをおそれずにやり、
心のまま生きるその姿はとても美しく思えま
した。

サンサに会い前の私は人目を気にして、
何かをする前に「私なんて」とあきらめてし
まうような子でした。でも、それは、私は自
分を大切にしていなかったせいだと気づきま
した。今の私がいるのは、まちがちな彼女
のおかげです。

女同士の友情は恋人やパートナーと同じく
らい大切だと思っています。恋人が特別な存在で
あるように、友達もまた心から安心できる居
場所です。気を使わずに弱さを見せられるこ
と、何でも話せること、そして何かあっても
味方でいてくれること、それは私にとって愛
そのものです。友情も恋愛と同じくらい、時
にはそれ以上に人生を豊かにしてくれるもの
だと私は思います。

女として生きることはいつも簡単ではあり
ません。社会は私たちを比べさせ、見た目や

年齢で評価したりします。そして、女同士を
 競わせようとしています。でも、私たちは敵では
 なく、支え合う存在であるべきです。友人同
 士だけでなく、知らない人でも女性が女性を
 大切にすることができたら、もっと生きやす
 い世界になると思っています。やさしい言葉をか
 けること、誰かの選択や努力を否定しないこ
 と、そうした小さな行動の積み重ねが私を強
 くし、自由にしてくれます。比べ合うのでは
 なく、高め合います。私は、そんな女性同士
 の繋がりが少しずつ社会を変えていくと信じ
 ています。

これからも私は、友人たちや母から教わっ
 たことを忘れずに生きていきたいと思っています。
 「愛は小さな行動の中にあること」、「助け
 合うことで人は強くなれること」、「そばに
 いることは、おたがいを支え合う心の表れで
 あること」。やさしい言葉や、やさしく手を
 かすことや、小さな思いやりが人の心を温め、
 前へ進む力になると私は信じています。私も、

誰かがっがい時にそばにいられる人であたい
です。私を育ててくれた友情のお返しとして
今度は私が周りの女性たちにやさしさと愛を
広げていきたいです。